



マーケットレポート

FOMC*1(6月16日・17日)の注目点

情報提供資料
2026年6月18日

政策金利据え置き FOMC参加者の半数が年内利上げ予想に

- 4会合連続で据え置きを決定。政策金利予想ではFOMC参加者の半数が年内利上げを見通す
- ウォーシュ議長は政策の先行きを示唆せず、FRB改革を目指すタスクフォース立ち上げを発表
- 市場の反応:先物市場が織り込む年内利上げ確率は85%に大幅上昇、株式・国債(価格)は下落

1. 政策金利据え置き。声明文は、音量半減、ガイダンス削除、物価安定の実現に重点置かれる

・金融政策:政策金利を3.50-3.75%に据え置き

市場予想通り、FRB*2は政策金利を3.50-3.75%に据え置くことを、2025年6月以来の全員一致で決定しました。

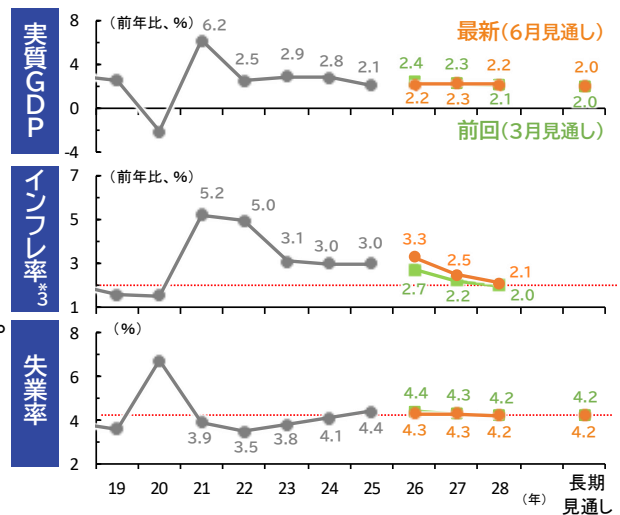
・雇用・物価見通し:実質GDP・雇用微修正、物価は上方修正

声明文は、音量が半減する簡素な形に変更されました。景気は「中東情勢巡る不確実性の高まりに関わらず堅調なペースで拡大」、物価は「FOMC2%目標対比で高止まりしている」と概ね前回見通しが維持されました。雇用は「労働力人口の増加に沿って伸びており、失業率はほぼ変化なし」と雇用下振れリスクの後退を示す記述となりました。前回会合で緩和バイアスの記載*4に反対が出た政策ガイダンスは、削除されました。

参加者の経済見通し(SEP)では、前回対比で、実質GDP成長率と失業率は小幅修正。インフレ率は、全期間の見通しを引き上げ、26年+3.3%、27年+2.5%としました。(図表1)

・市場の反応:政策金利見通しの上方修正で年内利上げ観測が強まり、S&P500指数は前日比▲1.2%、金融政策に敏感な米2年国債利回りは+13.3bpと急騰しました。

図表1. FOMC参加者の景気・物価見通し(中央値)



【出所】FRB、Haver analyticsの公表データに基づき、リそなアセットマネジメント作成

2. ウォーシュ議長はFRBの改革プランを発表、自身の経済・政策金利の見通しは多く言及せず

○FOMC参加者の政策金利見通し(中央値)

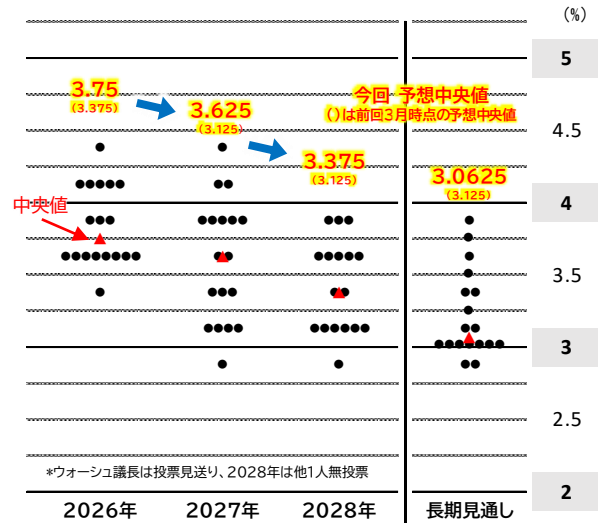
26年・27年末は、3.75%、3.625%と、前回3月時点の見通し(3.375%、3.125%)から上方修正されました。長期見通しは3.0625%へ微修正されました。(図表2)

○ウォーシュFRB議長記者会見における注目点

記者会見では、議長就任に伴う今後の委員会運営の見直しが焦点となりました。ウォーシュ議長は見直しの一環として、金融政策運営の中核となる5つの分野*5にタスクフォースを設置することを発表しました。また、記者会見や政策金利見通し(図表2)、議事録等含めたFRBのコミュニケーションも年末までに縮減方向で見直すとし、フォワードガイダンス*6の廃止も検討する可能性を示しました。

今会合を受けFF金利*7先物市場が織り込む12月会合までの利上げ確率は85%に上昇しました。ただ、当社では1)長期期待インフレ率は原油高後も安定、2)雇用市場に下振れ懸念が残る、3)現行のFF金利3.625%は中立金利を0.5%以上を上回り米景気に抑制的水準にあることから、利上げを急ぐ必要は乏しく、26年度内は政策金利据え置きを予想します。

図表2. FOMC参加者の政策金利見通し(中央値)



*ウォーシュ議長は投票見送り、2028年は他1人無投票

【出所】FRBの公表データに基づき、リそなアセットマネジメント作成

※本文、図中の*については、最終ページの<補足>をご覧ください。

※当資料の使用に際し、最終ページの<当資料に関するご留意事項>を必ずご覧ください。

〈補足〉

- *1 FOMC … 連邦公開市場委員会 (Federal Open Market Committee)。米国の金融政策決定会合にあたる。
- *2 FRB … 連邦準備制度理事会 (Federal Reserve Board)。米国の中央銀行の意思決定機関にあたる。
- *3 インフレ率 … コアPCEデフレーターを参照。FRBが参照するインフレ指標である、個人消費支出 (Personal Consumption Expenditures) デフレーターのうち、変動の大きいエネルギーと食品を除いたもの。
- *4 緩和バイアスの記載 … 前回FOMC声明文中にあった「フェデラル・ファンド金利の目標レンジの更なる調整の程度とタイミングを検討する」を指し、将来的な金融緩和を示唆する文言。この文言に対して、前回会合では3地区連銀総裁が反対票を投じた。
- *5 金融政策運営の中核となる5つの分野 … ウォーシュ議長は今回の会見で、1)FRBのコミュニケーション、2)バランスシート政策、3)既存のデータの活用方法、4)変化する時代の生産性と雇用、5)FRBのインフレの見方、を挙げた。
- *6 フォワードガイダンス … 中央銀行が将来の金融政策の方向性について、市場へ事前に情報を提供する手法。金融政策の透明性を高め、経済主体(企業や消費者)の期待を調整することで、経済活動や市場の安定を図ることを目的とする。
- *7 FF金利 … フェデラル・ファンド金利(Federal Funds Rate)。米国の政策金利の誘導目標にあたる。

〈当資料に関するご留意事項〉

■当資料は、りそなアセットマネジメント株式会社が投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。■当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、りそなアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。なお、掲載されている見解は本資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また、事前の連絡なしに変更されることがあります。■投資信託は、値動きのある資産を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。■投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」および一体としてお渡しする「目論見書補完書面」を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。